

サテライト展示 浅野文庫所蔵資料紹介「学問所并北之明地共絵図」関係事項

人名	略歴
植田含翠（うえだ がんすい）	寛延元年（1748年）～文化9年（1812年）。広島藩儒。広島藩で闇齋学派の基礎を築いた植田良背（ごんはい）の子孫。名は成徳、通称守衛。
加藤定斎（かとう ていさい）	明和元年（1764年）～天保6年（1835年）。広島藩儒。本姓は清水。名は友諒、通称は三平、別号に中瀬。 初め金子楽山に師事し、のちに加藤十千（じっせん）に師事して闇齋学を学んだ。十千の嗣子に子が無かったため、安永6年（1777年）養嗣子となり、加藤と称し家学を継いだ。学派抗争の際には朱子学を奉じた。
金子楽山（かねこ らくざん）	享保4年（1719年）～文化2年（1805年）。広島藩儒。名は忠福、通称は原泉、源内。 家は代々、家老東城浅野家につかえる医師の出であったが、加藤十千の弟子となり闇齋学を学んだ。安永3年（1774年）藩の儒医組となり学問所で教える。
増田来次（ますだ らいじ）	生年不詳～寛政7年（1795年）。広島藩士。儒学者。7代藩主浅野重晟に仕える。 学問所の創立にあたり、歩行組書翰方から儒者に抜擢された。学問所では教授のかたわら校務を司り、学問所創設に尽力した。古学派に属し、朱子学・闇齋学批判の先頭に立ったため、頼春水などと合わなかった。学問所を退職したのちは、自宅で子弟の教授にあたった。
香川南浜（かがわ なんぴん）	享保19年（1734年）～寛政4年（1792年）。広島藩儒。名は蓋臣、通称は修蔵。 独学で和漢の書を読み、のち諸国に遊学した。広島にかえって私塾修業堂をひらく。学問所では古学を教えた。藩校が朱子学に統一された結果、香川南浜を初め古学派は学問所を退職した。このことは元々積極的に各学派を登用した藩主重晟の真意ではなく、重晟は南浜が学問所に登用される前に開いていた私塾修業堂を財政的に援助して復活させ、藩立の学塾とした。
頼春水（らいしゅんすい）	延享3年（1746年）～文化13年（1816年）。広島藩儒。名は惟寛、字は千秋、通称は弥太郎。頼山陽の父、春風・杏坪の兄にあたる。朱子学を修め家塾を開いたが、のち広島藩の藩儒となった。厳格な朱子学者で、藩学を朱子学に統一した。天明3年（1783年）に江戸詰め命を受け、江戸で浅野重晟の世子（せいし。跡継ぎのこと）齊賢（なりかた）の伴読（ばんどく。一緒に読書すること）を行い、寛政12年（1800年）と享和2年（1802年）に昌平坂学問所で講釈し、朱子学の興隆につとめた。

事項	内容
闇齋学（あんさいがく）	山崎闇齋（やまざきあんさい）の学説を信奉する儒学の流派。広い意味では朱子学派の分流。神道と朱子学を結合した「垂加（すいか）神道」を唱え、後世の尊王攘夷運動に大きな影響を与えた。
朱子学（しゅしがく）	中国南宋の朱子（しゅし）によって確立された儒学の学説。鎌倉初期ごろ、日宋の禅僧の往来とともに伝えられた。既成の道德規範や社会秩序を重んじる学風から、武士や上層庶民の間に広く普及し、江戸時代の儒学を中心となった。
古学（こがく）	江戸時代の儒学一派。朱子学を道家（どうか）や仏教の思想をまじえたものと批判して、孔子・孟子の原典に直接あたって考証、解釈することを主張する日本独特の儒学。